

全国の公害資料館や公害関係者（団体）等が一堂に会し、『新しい公害教育』について各地の取組みや課題を共有し、話し合いました。

12月5日（金）から7日（日）までイタイイタイ病資料館等を会場に第2回公害資料館連携フォーラムが開催されました。3日間の日程で全国から集まった公害資料館、NPO、公害関係団体等が各地の取組みや課題を共有し、これからの「新しい公害教育」について考えました。

初日のフィールドワークで参加者は、イタイイタイ病資料館で職員による展示解説を受けた後バスに乗り込み、地元の一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会（以下「被団協」という。）の高木勲寛代表理事に解説していただきながら、復元田や復元記念碑、汚染農地等、神通川流域のイタイイタイ病に関係する場所を巡りました。最終目的地の清流会館では、展示室を見学するとともに、参加者全員で1日の学びを振り返りました。雪が吹き付ける今年一番の悪天候にもかかわらず、全国から大変多くの方が参加され、富山のイタイイタイ病を学ばれました。

2日目は、株式会社クレアン代表取締役でNPO法人サステナビリティ日本フォーラム事務局長の藺田綾子さんに『企業との対話の可能性』という演題で基調講演をしていただきました。藺田さんがこれまで手掛けてこられた有名企業の事例紹介を交えながら、企業がCSR（企業の社会的責任）を果たしていくうえでは、地域住民や関係団体、株主といった利害関係者との対話が重要な役割を占めることについて講演いただきました。

基調講演に続き分科会が翌7日にかけて行われ、「公害資料の収集・保存・整理」や、「学校との関係づくり」等、7つのテーマでゲストを招き、熱い議論が交わされました。参加者は、発表やワークショップを通して公害の伝承や教訓を活かす取組みについて意見交換し、今後のあり方について考えました。特に6日の「企業との関係づくり」の分科会では、神岡鉱業株式会社からも参加いただき、これまでの環境被害克服への取組みや今後の課題などをお話ししていただきました。パネルディスカッションでは、被団協の立入調査等の実施を通して構築してきた原因企業と被害者団体との「緊張感ある信頼関係」を例に公害被害の克服や資料館を含めた三者連携の重要性について考えを共有しました。原因企業、被害者団体、県立資料館の三者が同じテーブルに着き意見を交わすのは初めてのことであり、神岡鉱業株式会社に対し、これまでの取組みやフォーラムの出席に賞賛の声もありました。

また、7日の学校との関係づくりをテーマにした分科会では、富山市立宮野小学校の柳田和文先生にイタイイタイ病を題材にした授業の実践事例について発表していただきました。

最終日には、全体会として分科会での話し合いの成果を会場の参加者全員で共有し、その中で出た課題に対する解決策を模索しました。全体会の最後には、この事業の

持つ意味・目的、そしてこの取組みを継続していく事の必要性を会場の皆さん全員で確認し、フォーラムは大成功のうちに幕を閉じました。

この資料館連携フォーラムには、当初の予定を上回る約150人が参加されました。普段立場の違いからなかなか会することのない人たちが、『公害』『教育』という共通のテーマで一緒に考え、話し合うことでお互いの考えや果たす役割について共有し、お互いの理解を深めることができた3日間となりました。



フィールドワーク（資料館）



フィールドワーク(宮川地区復元記念碑)



基調講演（藺田綾子氏）



全体会

**教員向け資料館活用研修会を開催します。**

今年も、小学校や特別支援学校（小学部）の教員を対象とした、資料館活用研修会を開催します。この研修会は、イタイタイ病や当資料館を社会科の授業や総合的な学習の時間、道徳の時間などに役立てていただくために実施するものです。

研修会の前半（第1部）では、子どもたちが資料館を訪れた際に学習する内容を教員の方々に体験していただくこととしており、ガイダンス映像の上映や職員による展示解説を行います。

後半（第2部）では、当館語り部の小松雅子さんの語り部講話を聴講した後、イタイタイ病を題材とした授業の展開方法や、カリキュラムへの導入方法など実践事例の発表を富山市教育センターの三原茂指導主事に行っていただき、その後、富

山国際大学子ども育成学部の水上義行教授にイタイイタイ病や資料館の活用についてお話ししていただきます。

第1部（13：00～）の学習メニューの体験が不要な方は、第2部（14：00～）からご参加ください。

参加には事前申込みが必要です。申込用紙に必要事項を記入のうえ、FAXで資料館へ送信ください。参加案内や申込用紙は、県内小学校へ郵送しておりますが、ホームページにも掲載しております。

年末のお忙しい時期とは存じますが、日々の授業のヒントが得られる機会ですので是非ご参加ください。

「資料館ホームページ」（URL <http://itaiitai-dis.jp>）



昨年度の資料館活用研修会の様子

